

請 願 文 書 表	
受理年月日 及び番号	令和5年2月3日 第61号
件 名	小学校で「ゲノム編集の野菜」を栽培させない、 食べさせないことを求める請願
請 願 者	<div style="background-color: black; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 60%; height: 15px; margin-bottom: 5px; margin-left: 20px;"></div> <div style="background-color: black; width: 50%; height: 15px; margin-left: 40px;"></div>
紹介議員	沢 田 けいじ 小 林 れい子
請願の要旨	次 頁 の と お り
付託委員会	文 教 委 員 会

請願理由

日本では、ゲノム編集食品の流通が始まっています。通常、新しいバイオテクノロジーで作られたものは、長期間の動物実験で安全性を確かめ、本当に人間が食べて安全なのかという評価を行います。また、消費者が選択できるよう食品に「ゲノム編集」という表示も必要です。しかしゲノム編集食品では、どちらも行われておりません。未知のリスクの可能性のあるゲノム編集トマトの苗が、2023年に小学校で無償配布される計画があります。日本の未来を担う大切な子ども達に、動物実験よりも先にゲノム編集食品を食べさせることは倫理的に問題があります。

ゲノム編集とは、特定の遺伝子を壊し、品種の改良を行う技術のことです。ゲノム編集では、目的以外の遺伝子を破壊する「オフターゲット」と呼ばれる現象が起きる可能性が指摘されています。目的以外の遺伝子が破壊されると、予想外の毒性やアレルギーを引き起こす可能性があります。また、ゲノム編集には「抗生物質耐性遺伝子」が挿入されます。

「抗生物質耐性遺伝子」が削除されずに体内に取り込まれると、抗生物質耐性菌が出現し、細菌が感染しても抗生物質が効かない体になる恐れがあります。

2018年に中国の南方科技大学では、ゲノム編集技術を人間に使用しました。HIV（エイズウイルス）感染者のウイルスが赤ちゃんに伝わらないように、受精卵の段階でウイルス感染にかかわる遺伝子を破壊したのです。しかしその後の調査で、赤ちゃんは西ナイルウイルスに感染しやすいほか、インフルエンザが重症化しやすくなり、短寿命化も起きることなどがわかりました。このようにゲノム編集では、予想外の有害事象が後になって判明することが起きているのです。

市民団体「OKシードプロジェクト」の調査では、全国168の自治体がゲノム編集トマトの苗を「受け取らない」と表明しています。「受け取る」と回答した自治体はありません。東京都内でも「受け取らない」と回答した自治体がでています。文京区でも予防原則の立場に立ち、ゲノム編集トマトの苗は受け取らず、栽培させない、食べさせないで下さい。

以上のような観点から、文京区議会に対して下記の事項を請願いたします。

請願事項

- 1 動物に食べさせての安全評価がされておらず、目的以外の遺伝子の破壊により予想外の毒性やアレルギーを引き起こす可能性がある「ゲノム編集食品（上記のトマト含む）」は、文京区の小学校で子ども達に栽培させない、食べさせないよう区に求めること。
- 2 「ゲノム編集食品」の安全性の調査・研究を独自に行い、安全性が確認されるまで、「ゲノム編集食品」は、加工品を含め、学校給食に使用しないよう区に求めること。
- 3 「ゲノム編集食品」は食品表示がなく、知らずに購入してしまう恐れがあるので、「ゲノム編集食品」の表示を種苗・作物・食品にするよう国に求めること。